



2023.5.19 瀬戸ひなご幼稚園園長 神戸洋美

五月病とは…

『五月病』を調べると次のように出てきます。『新年度の4月に入学や就職、異動、クラス替えなど新しい環境への期待があり、やる気があるものの、その環境に適応できないでいると、人によってはうつ病に似た症状がしばしば現れる。それが5月のゴールデンウィーク明け頃から起こることが多いため、この名称がある。』だそうです。新しい生活や環境に適応できないまま、ゴールデンウィーク中に疲れが一気に噴き出す、長い休みの影響で学校や職場への行く気を削ぐなどの要因から、ゴールデンウィーク明け頃から理由不明な体や心の不調に陥る、という例もあるとのこと。

幼稚園のお子さんでも4月の入園式から1カ月が経ち、やっとクラスのお友だちや先生に慣れて来た頃にゴールデンウィークが始まるので、連休後は振り出しに戻って最初からスタートしなければなりません。長いお休みは嬉しいのですが、我々職員も複雑な心境です。長いと思っていた休みもあっという間に終わり、今は一日一日根気よく積み上げていく毎日です。ゴールデンウィーク明けに園に行くのを嫌がっているおさんがみえるかもしれませんが、そのおさんが特別なのではなく、どのおさんもほぼ同じ気持ちなので、うちの子だけ？と落ち込まないでください。五月病にはすぐに効くお薬がある訳でもなく、とにかく気長に見守っていただくしか方法はありません。笑顔で送り出していただくようお願いします。

また2・3歳児クラスは5月がスタートなので、「お家がいい。ママがいい。」と思い出しては泣いてみえます。昨日泣いていたおさんが、今日はニコニコで来てくれた、と安心して、また次の日に戻ってしまったりという繰り返しが続きます。正に『3歩進んで2歩下がる』の毎日ですが、受け入れる我々もあせらずじっくり関わっていきますので、ご理解をお願い申し上げます。



子どもたちの憧れるものは？

今年1月に発表されたニュースによると、日本の教員は現状約2500人以上不足しているそうです。教師確保の状況アンケートによると、『長時間労働による過酷な労働環境、部活動などの顧問による業務負担、給料などの待遇が良くない、保護者や地域住民などの対応による負担』など仕事の負担が増え、そのため教員を志す人の数が減少し、教員不足を引き起こしています。これは学校だけでなく幼稚園や保育園でも同様です。愛知県においても10年前は、教員採用試験で13倍以上あった競争率が、今は4.5倍に減少しました。これは教員の質にも影響し、教育内容に直結する問題です。

子どもたちが今一番なりたい職業は小学生の男子「会社員」、小学生の女子「パティシエ」だそうです。中学・高校になると男子も女子も1位は「会社員」で、「公務員」も人気があります。でも、「幼稚園や保育士」「教師・教員」も4位から7位に入っていて、決して人気がないわけではありません。我々教師の立場からすると、『子どもたちの成長に携わる。子どもたちの将来に影響を及ぼす』という魅力ある職業だと思いますが、現在はなかなか理解されないのでしょうか。



政府や自治体は、講師登録者数の増員や大学などとの連携、教員免許の取得しやすさの向上、教員免許更新制の廃止など、教師が働きやすい環境づくりに取り組んでいます。働きやすい環境や処遇が整えば、教員不足が解消され、働きやすい環境に変わっていくと思います。そのためにも、教師の仕事がいかに魅力的なのかを積極的に発信したり、現状に疑問を持ち改善に向けて行動したりすることが大切とありました。

因みに子どもたちの憧れの人の第1位は、小・中・高全て『お父さん、お母さん』でした。先を行く我々大人が、笑顔で楽しく子育てや仕事に取り組む姿を見せていくことが大切だと改めて思いました。